

JUNGIDO

『遵義の桜、さらなる開花』

1898 =  = 2002

滋賀県立膳所高等学校同窓会報 遵義堂

発行人/宇野 勝
 発行所/滋賀県立膳所高等学校同窓会
 大津市膳所2-11-1
 TEL077-524-4295・FAX077-524-1732
 発行日/平成14年4月15日
 編集人/広報部会・山田 勲
 印刷/有限会社服部印刷所

CONTENTS

巻頭エッセー	1
同窓会入会にあたって	1
平成14年度総会のお知らせ	1
同窓生活動報告	2, 3
福島先生と文芸班の思い出	3
JUNGIDO 谷口編集長を偲んで	3
周年記念同窓会報告	4, 5
周年記念同窓会予告	6
会計中間報告・総会提出議案	6
校舎改築工へ	7
膳所高NEWS	8

VOL.19

巻頭エッセー

「改革」自由な校風とよき伝統を活かしながら

校長 西岡 宏 堂



平成13年4月、伝統ある膳所高等学校の校長ということでの引き継ぎの思いが重なり、はや1年が過ぎましたが、よき歴史と自由な校風を引き継ぐことの重大さに、息苦しいほどの緊張を覚える毎日でしたが、膳所高校の卒業生の母校に對する熱い思いを受け止め、全力を尽くして責務を果たしていく所存でございます。膳所高校同窓会の皆さんには、日ごろから何かと母校に関心をお持ちいただき、ご理解・ご支援を賜りましてありがとうございます。

将来の日本のさまざまな分野で指導力を発揮していく可能性を持つ膳所高生は、茶髪やミニスカート等外見上は大きく変貌していますが、時勢をわきまえた言動に変わらぬ姿、態度を発見して安心しています。生徒たちに始業式などでも話してきたことは、高校生活で目標を持ち、そしてその目標を達成するための計画をたてようということでした。言い換えれば、志を持ち遵義力行の精神を実践しようということでした。私の思いを理解してくれた生徒が大半でしたが必ずしもそうでない生徒もいて私の力不足を反省させられて

平成14年10月からの校舎等の改築に向けての基本設計が決まりました。校舎は、現在のグラウンドの南側に4階建てのコの字型で新築され、併せて武道場とプールが2階建てで改築され、校舎の取り壊し後、グラウンドが整備され、改築の完成は17年3月の予定です。整った教育環境の下で勉学に勤しむことが可能となります。改築に関しましては今後何かとご協力をお願いすることになります。本年度からは学校完全5日制が始まり、15年度からの新しい教育課程の編成が最大の課題となっております。卒業生のご協力を得て土曜日には「自習室」を開講し、また教員や講師による「学習セミナー」を開講し授業時間数の削減に対処していこうと計画を進めています。

新入会員



同窓会入会にあたって

平成14年3月卒業 永濱 祐樹

膳所高校の記念すべき50回目の卒業生となるにあたって、伝統と歴史を感じると同時に3年間という時の短さを痛感する。ただその短いと考える感覚はやはり楽しい生活を共有する仲間がそれだけ多くいたことを意味していると思う。なぜなら、素晴らしい時間は短い、その時間は素晴らしい仲間と創り上げたのだと考えているからだ。自分自身も含めて、膳所高校には色々な人がいる。そんな仲間との出会いに感謝すると共に皆に伝えたいことがある。それは、「みなで完璧を」ということだ。世間では完璧な人などいないとはよく耳にする言葉である。

しかし、多くの人が互いに足りない部分を補えば可能になることも必ずある。膳所高生一人一人が膳所高校にとって必要な存在なのだと思ふ。もちろん卒業してからも、今、僕たちは人生の中で最も多くの人々と関わり合いを持つことのできる時期を歩んでいる。人間は確かに一人では生きられないが人として完璧にはなれない。この膳所高校での生活で見出した答えは友人は人にとってかけがえのないことであるということ。当然のことではあるが、これを胸に秘めて新たなスタートの一步を踏み出したい。

会費納入ありがとうございました。

同窓会会費納入状況

皆様から納入いただきました、平成13年度の同窓会会費は、平成14年2月28日現在、

総額 **9,337,378円** となっています。

前払いしていただいている方については、当年度分を振替充当して、上記金額に集計させていただいております。会員の皆様のご理解に感謝すると共に、ますますのご協力をお願いいたします。

今回、平成14年度会費として振替用紙を同封いたしておりますので、ご納入のほどよろしくをお願いいたします。(財務部会)



講演者からのひとこと

19世紀オーストリアの作家アーデルベルト・シュティフター(1805-1858)と彼の小説「ブリギッタ」、「晩夏」について、押し付けがましいことは一切言わずに、紙芝居風に語ります。

講師プロフィール

1938年滋賀県栗太郡瀬田町に生まれる。60年大阪市立大学文学部ドイツ語・ドイツ文学専攻卒業、62年同大学大学院文学研究科修士課程独文学専攻修了後、龍谷大学文学部講師を経て、大阪市立大学文学部講師、助教授、教授。2001年3月定年退職、およそ40年にわたる「ドイツ語」の教師生活を終える。大阪市立大学名誉教授、社団法人日本ゲリテ協会理事、東四会会長。

出席のお返事は同封の葉書でお願いします。欠席の方及び異動のない方はご返信不要です。

●懇親会
 (懇親会にご出席の方は、当日受付にて会費6千円をいただきます。)

●講演 「愛ふたたび、かたち二つ」
 講師 椿 鐵雄氏(大津東高4回生)
 大阪市立大学 文学部名誉教授

●議事 平成13年度会務報告
 平成13年度会計報告並びに会計監査報告
 平成14年度事業計画並びに予算案
 その他 会則の一部変更
 イ、会費の変更について
 ロ、総会開催日について

●場 所 琵琶湖ホテル
 TEL 077-524-7111

●日 時 平成14年5月12日(日)午前10時開会
 (午前9時30分受付開始)

平成14年度総会

膳所高等学校同窓会平成14年度定時総会を左記の要項により開催いたします。本年は校舎の改築がいよいよ着工されます。工期は平成17年3月末日までの丸3ヶ年計画であり、この事業を盛り上げるためにも本年度の総会に皆様方の多数のご出席をお願い申し上げます。

本年の総会は5月12日(日)
 平成14年度
 総会のお知らせ

元気いっぱい!!こんな分野で頑張っています。

前進あるのみ!

池田 洋介
膳所高42回・平成6年卒

「いまどういうお仕事をしていますのですか?」
僕にとってこれほど答えるのが難しい質問はありません。実際僕はいろいろな事をしていて、それが今の自分の「お仕事」なのかといわれても、正直自分でもよく分からないからです。ただもし僕がやっている事の中で一番好きなことを一つあげるといふなら答えは決まっています。「僕はジャグリングをやっています。」

高校時代、生徒会長演説で全校生徒の前でマジックをして大受け、見事膳所高生徒会長になったというのがある。池田伝説の「つた」と自負しているのですが、当時から人前で何かをして喝采を浴びることが大好きだったのでしよう。そんな僕が大学に入り「ジャグリング」という芸に出会い、すっかりその虜になってしまったのです。「ジャグリング」というのはボールやクラブ、箱などをさまざまに操る芸のことで、今でこそ日本でも浸透しつつありますが、当時はそんな言葉を知らない人すら誰もいなかったのです。

当然教えてくれる人など回りにいませんから、すべて独学です。数少ないビデオや書籍を海外から取り寄せたり、実際に大道芸人の芸を見に行ったりしてひたすら練習をしました。それからもオリジナルの技やムーブを開発したり新しいパターンを研究したりし、ジャグリングを始めて4年でプロも参加するコンテストで見事優勝。技のレベルの高さだけでなく、その構成の緻密さが高い評価を得たのです。

「ジャグリング」というとどうしても大道芸やサーカスなど「見せる芸」という印象がありますが、実は今「ジャグリング」の持つスポーツ、レクリエーションとしても側面が注目されつつあります。1998年に京都に設立した Juggling Donuts というサークルでは小学生から社会人までさまざまな人がジャグリングを趣味の一環として楽しんでいます。この楽しさを一人でも多くの人に知ってもらいたいのも僕の大きな活動目標で、現在はショーやフェスティバルのプロデュースなどにも幅広く携わっています。

どんな新しいことに挑戦して自分を広げることができるのは本当に楽しいことです。おそらく僕は安定というものは無縁の人生を歩むことになるでしょうけど、現状に満足して立ち止ま

てしまったり、自分勝手に限界を作って何もしていないなんてつまらないでしょ。「常にどこかに向けて前進していく自分でありたい」、何歳になっても変わることはない僕の抱負です。

【プロフィール】
○大学時代
独学でジャグリング、バンドマイムを習得
○天保山ワイルドパフォーマンスフェスティバル 一般の部 優勝
○ジャグリングフェスティバル チーム部門 優勝
○静岡岡太道ワイルドカップ・フリー部門 出場
○現在はパフォーマー、プロデューサーとして京都を中心に活躍中
○京都大道芸倶楽部 Juggling Donuts
(http://juggling-donuts.org)



クラシック音楽の視野を広げたい

奈良田 朋子
膳所高37回・平成元年卒

こういう同窓会誌に登場するのは、当時の優等生」と、相場が決まっているものなのに、と先程から首を捻りつつ、久しぶりに高校時代を回想しております。あれから十数年。大学時代、20代は、したい事を存分にしたいという感があります。大学卒業後、院に入ったものの、論文よりもっと演奏センスを身に付けたいと2ヶ月で飛び出し、その後6年半はパリで過ごしました。漠然とは分っていましたが、パリという街は音楽美術などの芸術から、モード、食に至るまであらゆる面でメッカとも言える場所です。初めは消化不良を起していました。次々にフランス人的な物の考え方やクラシック音楽が生まれたヨーロッパという土壌が求める音楽の方向性などが、私にとって居心地のいいものへと変わっていききました。レッスン或いはコンクールなどで、世界各国から集まる同年代のピアニスト達の感性溢れる才能に大いに刺激を受け、発奮して頑張っておりましたが、意を決して帰国したのが2年前。すっかり向こうの生活に馴染んでいた私は、帰ってくるなり今度は日本のクラシック音楽離れに愕然としたものです。現在、自分なりの演奏活動を続けながら、後進の指導にも当たっていますが、最近特に考えていることは、クラシックを一部のマニアックなファンだけでなく、もっと視野を広げていくにはどうしたらいいか、クラシック音楽の敷居の高さと、

あの「ペイトロヴェエンの顔」に象徴されるような小難しいイメージをどうにか払拭出来ないだろうか、或いは最近の風潮「癒されたい」、又は、興奮、感動を味わって元気になりたい」というところから生まれた音楽療法なども絡めて演奏会が出来ないものだろうかということですが、実際多くの演奏家達が同じような危機感を覚え、親しみやすい演奏会も開かれています。日本人の心から、芸術を愛する気持ちが笑われてしまわないことを願っています。



【プロフィール】
○京都市立芸術大学音楽学部卒業
(音楽学部賞受賞)
○パリ国立高等音楽院第3課程高等研究科
○パリ・マールセイユ音楽院マスタークラス終了
○ラフマニノフ国際ピアノコンクールにて第2位
○リスト国際ピアノコンクールにて第3位
○平成9年度滋賀県文化奨励賞受賞 現在、武庫川女子大学音楽学部講師

キラキラした汗と笑いにつつまれて

鈴木 真美
膳所高26回・昭和53年卒

2002年2月2日。ゴロが良い日に、突然私のバレエスタジオはオープンした。小さい時から踊りたくてもチャンスには恵まれなかった。主人のアメリカ転勤をきっかけに、最初は暇つぶしでダンスを始めた。バレエ、ジャズ、モダン、リリカルと取れるだけのクラスを受けた。そして、元プロロードウェイバレエダンサーのケイト・シトと、モスタワのトップ振付家のアブソンという二人の先生に出会い、バレエにのめり込んでいった。朝から晩まで週6日、6年間。主婦を忘れるなとさんざん言われながらも、「若かったら世界のトップに立てたのに」と先生に言われ、踊ることを楽しんだ。加えて、生徒を育てるためのダンステクニックを徹底して教わった。最後には、「日本へ帰ったらスタジオを持てよ。寿司を食べるついでに教えに行つてやるから。」と言われて帰国した。しかし、日本に帰ってしばらくすれば、現実に教え始めた。12月までの3年間、日スタジオでお

世話になったが、オーナーとダンスに対する意見が合わなくなってきた。とうとう嫌になって辞めると決めたものの、その後どうするかは頭になかった。「先生、自分でスタジオをオープンしたらどう?」と冗談とも本気ともつかない生徒たちの言葉に乗せられ、自分のスタジオを持つことになった。場所を見つけて契約し、壁紙の貼り替え、床工事、鏡、パリの取付け工事、わずかに10日、手作り部分も多かったのに、たくさんの人に助けられてトントン拍子にスタジオは完成した。

生徒はまだ少ないが、若い女の子たちをはじめ、幼児から主婦までみんな踊ることを心から楽しんでる。生徒たちのキラキラとした汗と笑い声が絶えないスタジオ。これが私の宝物、Missy Ballet Academy.



「かわった人やな...」

手打蕎麦 蕎麦座 延
上 延常夫
膳所高18回・昭和45年卒

「かわった人やなやな、こんな田舎で蕎麦屋かいな、平家の落人みたいなやな」と地元の人によく言われました。自分ではそんなに変わっているとは思いませんが、猿が歩き、鹿や猪も出るし、キツネは庭で鳴き騒ぐし、金儲けだけでこんな山里に来るのなら確かに変わっています。

京丹波は和知町、人形浄瑠璃の里太鼓。ふた昔程前の日本の風景が在ります。水も空気も星も綺麗だし、里では様々な山野菜が採れます。何よりもこの里が持つ「気」が良



いのです。やろうと決めたのは一年前でした。代々の蕎麦屋の家に生まれ、蕎麦を打つことを選んだのは何故か？自分が蕎麦を打つことで何が出来るのか？自分が打った蕎麦を食べた方が「うまい」と言ってもらえる、喜んでもらえる。それが自分にもうれししいし、打つことが楽しい。蕎麦を打つことが「自分そのもの」であり「生きること」なのです。手間暇かけずコスト計算ばかり、命のない食材、「食」に携わる人間として考えさせられます。

山里の四季折々の風情を肌で感じたり、旬の山野菜の命を頂いて元気になってもらったり、のんびりと自分の「素」に戻ってもらったりできる「場」。人と人が出会い、人と自然が出会い新しい御縁ができ、広がってゆく「場」。そんな想いをひとつの「座」として開きたい。美味しいものを作るには、まず自分が美味しい作り手になる。蕎麦を打ち、座を営むプロセスのなかで様々な自分を「思い出す」。自分との出会いの旅をやっと今、始められたと感じています。

グラウンドゼロからの再出発

―第2の人生―

宮城 幸宏

膳所高30回・昭和57年卒

私は、昭和61年に日本興業銀行に入社し、昨年9月ニューヨーク支店に転勤になりました。私の初出勤は9月11日の午前8時半、ワールドトレードセンター2（以後WTC）の81階の予定でした。しかしながら、私はその前日の不思議な偶然のお蔭でWTCに行くことなく、九死に一生を得たのです。



NYに到着した9月10日、私は上司に転任の挨拶を済ます予定でした。しかし、飛行機が遅れた上、タクシーが行き先を間違え、ホテルから慌てて外出した途端、大雨に降られ、

上司のオフィスに到着したのは予定より5時間も遅れてしまいました。彼はすでに帰宅しており、従って私は翌朝の予定を急遽変更し、WTCの自分の席に着く前に再度挨拶に回らざるを得なくなりました。上司のオフィスはミッドタウンにあり、WTCへ急ごうとしていた矢先にテロを目撃したのです。

そんな訳で、命こそ助かりましたが、その後の事は筆舌しがたいものがあります。家族の急病でUターンして緊急帰国する途中、JFK空港上空で、まさにアメリカン航空機の墜落に遭遇、炎上を目の当たりにしました。仕事は大混乱、伯父の急死、その他様々な出来事による心労、ストレスが重なった為か、昨年12月上旬、NYの自宅で私は倒れました。

帰国し、関西の自宅へ戻ると、膳所高校57年卒の20周年の同窓会の案内状（1月2日開催）が届いていました。体調の優れない中、思い切って参加し私はこれらの経験を話しました。そのあと一人五百円ずつ出して、最後の人が総額を貰う「じゃんけんゲーム」がありました。私はあれよあれよと勝ち続け、気が付くと最後の一人になっていました。同級生からの励ましの気持ちだったに違いない、100枚以上の500円玉は大切な「お守り」として、一生大切にしていきたいと思っています。不思議なもので、この日以降、体調も劇的に回復し、3月にはNYに戻るまでになりました。

こんな中で私の人生観・価値観は大きく変わりました。まず第一に、人と人とのつながりの大切さを痛感したこと。1月2日以降、同級生との交流が急に深まり、膳所高校が人材の宝庫であることがわかりました。第二は人生をゆとり歩む充実感・ゆとり歩かないと見えない美しいもの（人の心も含めて）が世の中にかいたくさんあるかというのを知った事です。休む事は決して止まっているのではなく、着実に前に進んでいるのだと実感しました。最後は自分本当の夢は何だったのかを問い直すようになりました。今は銀行に勤め、経済人の「はしくれ」をやっていますが、これからは、NYで「日本人の心とは何か」という大きなテーマに取り組み、文化人の「はしくれ」としても生きてみたいと思っています。

グラウンドゼロからの再出発。第二の人生のスタート。私にとって、それは昨年の9月11日というよりは、今年の1月2日だったのかもしれない。

福島先生と文芸班の思い出

昭和35年卒 前田 樹男

5月10日の夜、福島先生がお亡くなりになったという知らせが、かつての文芸班の仲間であった堂本（旧姓南井）輝子さんからあった。11日の葬儀に参列するため久しぶりに大津へ行った。大津もすっかり変わって昔日の面影はなくなっているが、お経に耳を傾けながら、40年あまり昔の膳所高時代を懐かしく思い出した。

福島先生は40位で若く元気だった。出席を取るときは必ず目を合わせるようにと言われた。俯いたり、横を向いて返事をすると、「目をあげて」と注意された。その時は代返を防ぐためかと思っていたが、今思えば、生徒の体調や精神状態を見たり、顔と名前を覚えるためにそうしておられたのだろう。



S35年夏 文芸班同窓会（膳所高 校庭にて）

先生は夏休みの宿題として小説を書いてくるよう言われた。蚊帳の中で汗をかきかき、なんとか原稿用紙を埋めて提出した。先生が顧問をされていた文芸班に入るよう誘われ、何の気もなく入ったら、上杉さんという髪の長いちよつと憂いを含んだ先輩の班長に「未明」という班の文芸誌に原稿を書くよう言われて、いつの間にか文芸の沼にはまりこんだ。男子、女子、先輩、後輩を問わず、話をしたり、書いた詩や小説を読み合ったりしている間に友人や仲間ができた。「未明」を編集したり印刷したりしていると、何となく同人誌作家の気分になったりした。班員には人一倍感受性の繊細な人や内省的な人もいた。私も10歳から病気とその後遺症のため10年間休学し、松葉杖をつきながら学業に戻ったときは5年遅れていた。福島先生はよく人間の内面には大宇宙に匹敵する大きな世界があり、この小宇宙は大宇宙につながっているという話をされた。よく解らないままに何となく気持ちが大きくなる気がした。私は途中で文芸を離れ、デザインを仕事として選んだが、今にして思えば、膳所高時代の3年間は自分の人間形成にとって大切な期間であったと思う。福島先生、笑子というお名前のように、大宇宙をあの笑顔で安らかに遊ばしてください。

合掌

JUNGIDO

谷口編集長を偲んで

昨年の4月19日、JUNGIDO Vol.18が、会員の手許に送られ、私達広報部員がほっとしたその日、谷口さんの訃報が伝えられた。部員全員が驚きと悲しみに包まれ、言葉を失った。つい二週間前まで顔を突き合わせ、会報の校正作業に励んでいたことを思うと人の命の儂さをひしひしと感じざるを得ない。編集長谷口さんと共に頑張ったこの10年間の数10回に及ぶ活動の日々が懐かしい。膳所高校創立百周年記念を実施するに当り、同窓会の新体制の元に広報部が発足した。広報部では、「同窓会を活性化するために同窓会報を復刊しよう」ということになり、編集長に谷口さんを選び、やっとの思いで編集員ともども復刊準備号（0号）発刊に漕ぎつけた。デザイナーである谷口さんの発案で1992年の復刊をアピールする表紙となった。ありふれた会報ではなく、ユニークな、同窓生同志がホットなコミュニケーション出来る楽しい会報にしようというのが、谷口さんの口癖であった。復刊0号の発行とともに会報のネーミングを募集、応募の中で「遵義堂」が多数を占めたが、ローマ字で横文字にしようのも谷口さんの考えであった。記事の内容毎に色々なタイトルが考案された。谷口さんが在った広報部であった。編集部会員の不行届な取材にも叱咤することなくこやかに、「ご苦労さんでした」といつも犒いの言葉をかけてくださったもの忘れられない。校章を年号で挟んだすっきりしたテレカのデザインも谷口さんならではの作品で好評であった。広報部として色々なことに使わせてもらった。いつまでも残して置きたいテレカである。

何度か心臓の発作を起こされていたことを後で知ったのであるが、常に物静かに、にこやかに編集会議で話してもらった日のことを思い浮かべ「ご苦労さまでした」と感謝し、早急な死を心より悼み、ご冥福をお祈りしたい。今後の膳所高同窓会の更なる発展とJUNGIDO広報部の活躍を遠く「天国」のかなたより、微笑みながら暖かく見守っていただくことを願ってやまない。（上野 滋子）



故 谷口啓司編集長

同窓生 活動報告

周年記念同窓会

混濁会 (20周年記念同窓会)

(膳所高30回・昭和57年卒業)

さる1月2日、琵琶湖ホテルにて膳所高30回卒業生による20周年記念同窓会が催されお招きした恩師8名と卒業生111名が集いました。

久しぶりの再会に話が尽きることはなく、瞬く間に時間が過ぎていきました。

二次会にも多数の参加があり、それは一人ずつ現況報告を述べるといふ簡素なものでありましたが、それぞれが歩んでいる人生の有機が良くわがわが内容でした。

以後の学年同窓会をどのように持つかについて等、先日幹事よりハガキを発送しました。意見等ありましたら各幹事あるいは次のメールアドレスまでご連絡ください。 kouyunkai@freenl.com (萩山 恵一)



40周年記念同窓会

(膳所高9回・昭和36年卒業)

残暑まだ厳しい9月9日(日)、膳所高校第9回卒業生(昭和36年卒)の「卒業40周年記念同窓会」を浜大津、琵琶湖ホテル瑠璃の間において盛大に開催。過去、25周年、30周年35周年と5年ごとに開催してきたが、早いもので40周年を迎えることとなった。当日は恩師8名の先生方をお迎えし、同窓生15名相集い5年振り、いや卒業後始めての参加者も数多くいて開会前からホテルロビーでは懐かしい友との語らいがあちこちで見受けられた。二班に分かれて記念撮影のあと、会場へと全員集合。幹事代表の挨拶の後、恩師岡田節夫先生からお

言葉をおいただき、南池宜樹先生の乾杯の発声により開宴となった。楽しい時間は早く進むもので、アット云う間に予定の時間となり、全員で校歌斉唱の後、再会を誓い、万歳三唱で一次会はお開きとなった。引き続き、会場を5階和室大広間に移し、全員二次会へと移動、今度はクラス単位を越え、膝を突き合わせての談笑や、カラオケまで飛び出し、思う存分旧交を温めることが出来た。午後1時30分から延々5時間、途中で帰る者もなく6時30分、名残りは尽きないが終宴となった。その後三次会へと40数名、別にグループごと場所を移し、深夜にまで及んだグループがあったと後日聞かされ、本当に楽しい一日を送ることが出来たこと、幹事一同このうえない喜びである。

(幹事代表 松村 文夫)



45周年記念同窓会

(大津東4回・昭和31年卒業)

還暦を過ぎ、新たな活力源として、5年ぶりに、私たち昭和31年卒業の同期会は、平成13年10月7日(日)午前11時30分より、琵琶湖ホテル「瑠璃の間」にて、2組担任の北條勇先生、松山義夫先生、小笠原保信先生の3名の恩師のご臨席を仰ぎ、102名の同期生の参加を得て、盛

大に行われました。式典の部では、今回もまた滋世君の司会により、まず「東西」同窓会長 椿鐵夫が、事業報告をかねて開会の挨拶を行い、恩師を代表して松山義夫先生よりお祝辞を賜った後、今は亡き、3組担任の中山弘先生、5組担任の平田守衛先生、6組担任の木村憲治先生をはじめ、他の4名の恩師の先生方、および5名の同期生諸君のご冥福を祈って一分間の黙祷を捧げました。校歌「混濁の湖」の斉唱をもって式典の部を終了。引き続きホテル3階のスタジオにて参加者全員の集合写真撮影、会場舞台前で高城宗求君にカメラマンをお願いしての各組ごとの記念写真撮影はさんで、いよいよ12時30分よりパーティーの部に移りました。冒頭恩師紹介、記念品の贈呈を経て、北條勇先生のご発声により乾杯、会食に入りました。と、あつという間に45年前にタイムスリップ、気心のあった者どうしの話の輪があちこちに出来、欲談は大いに盛り上がりました。宴たけなわにして、「琵琶湖周航の歌」を大合唱。司会の辻君により今回ご出席いただけなかった恩師の「ひとこと」も披露されて、宴も終わりに近づき、全員で「道遠歌」を合唱。5年後にまた会いましょう、との高橋好乃さんの閉会の辞にて、午後4時にめでたくお開きとなりました。

別れ難き面々は連れ立って、ホテル隣のアーカス3回のカラオケB-WAVEに移動、その数56名。大部屋2室に分かれて、熱唱また熱唱。予定の2時間を過ぎても歌と話は尽きず、もう30分延長。去り難き気持ちを越えつつ、再会を誓い合っ



て散会したときには、午後7時を回っていました。(椿 鐵夫)

50周年記念同窓会

(大高2回・昭和26年卒業)

私達二六会は昭和26年(1951年)の卒業から半世紀を経て、21世紀がスタートした昨2001年に、卒業50周年の同窓会を錦秋の11月11日大津プリンスホテルで開催し、193名が出席した。パワーポイントで半世紀前の記録写真がスクリーンに次々映し出され、あの人もこの人にも逢いたいと思っ



第二次世界大戦の戦時下、私達は中学校・女学校にそれぞれ入学し、終戦の後続いた進駐軍の占領下に卒業した。思えば日本の国が一番多難な時代の生徒だった。

出席をお願いした現校長、西岡宏堂先生は当時に関心を持たれ、膳所高校の伝統はその頃どんなであったかを知りたいと仰せられた。創立百周年を記念し平成9年に新しく制定された母校々訓と同義の「至誠・遵儀・自主・力行」が当時の膳所中学校の校訓でもあったことを話した次第である。卒業以来、始めて出席した会員も多く、その中にはアメリカからの出席者もいた。二六会の皆さん次回も会いましょう。磯さの代名詞のように言われて来た「昭和一桁」ですが、そんなことは私拭いて元気に行き抜き余生を愉しみましょう。増額していただいた第1回目のお祝い金5万円を同窓会から頂戴した。宇野勝会長として同窓会員の皆さん有難うございました。(宇野 昌明)

三九会 (60周年記念同窓会)

(膳所高39回・昭和16年卒業)

戦後数十年にわたって専任幹事役を勤めてくれた山根君の献身的な、きめ細かい運営で毎年開催を続けてきたが、その急遽で臨時総会を開き、今後の運営と理念を話し合った。(第39回の卒業に因んで「三九会」と呼びなわかしている)

その結果、幹事役は一年交替、グループの輪番制と決定。新生第一回と銘打って、昨年大津の浅見君等を中心に、山科駅前前ブライトンホテルで開催した。(00・6・16・34名)

21世紀初頭の三九会は、守山地区が指名を受け、教名のスタッフで立案。8月末案内状を発送した。ところがその後で、今年度は卒業60周年に当たることになり、(50周年は、京都蹴上のミヤコホテルで盛大に挙行)

平成13年10月2日、湖国は快晴。11時草津駅に集合。一行22名。送迎バスで琵琶湖博物館へ。(一ヶ月後の「世界湖沼会議」を見据え会場下検分。一昔前の常盤村の遊地が、今や世界に情報発信可能な県唯一の中核機関に变身!)見学は残念ながら約一時間。バスで引き返し草津の料亭魚数へ。湖南随一と称する庭園で先ず記念撮影。

懇親会場では、ステージの大スクリーンに映し出された十年前の記念総会のビデオ(三並君作)を見ながら、文字通り膝を交えて旧交を暖め、一期一会の縁をかみしめた。因に、わが会員は、当年とって78才。男子の平均寿命。十年前百名だった生存者が、今年は80名に減る。

北九州市からの参加もあり、名残りを惜しみつつ、本部より借用のテープで「草生す城」を斉唱して散会した。(来年は幹事役を甲賀地区に依頼) (谷 直光)



膳中三七会

(膳中37回・昭和14年卒業)

於 びわこホテル 長等の間

我が三七会のメンバーの大半は80歳(傘寿)を迎え、正に高齢者の仲間入りをしたのであるが、毎年必ず御出席いた。いては恩師縣格二先生は90才と云うご高齢にて今なお筆として、絵筆をとってキャンバスに向い、その作品を我々に持参されるのが恒例になっている。我々が若い頃には「人生五十年」と云われ還暦を迎える事が慶事であったのを思えば最近の高齢化社会は只々驚きの外はない。人間の寿命は今も昔も余り変わりがなく、今日のこの長寿社会を迎えたのは生活環境・食生活の変化、医療の発達等が挙げられる。さりながら

人間が避けて通れない老病・死の問題は今も昔も全く変わらないとすれば今日の長生きは主として病に対する医療やその制度の充実にはならない。

之は社会保障制度と医療の発達、治療器具や医薬の充実によって生かされている部分が多いのではないかと。我が三七会のメンバーも卒業したのは百三十数名であったが、第二次

世界大戦と云う不幸はあったが一部行方不明者を除き生存する者は僅か六十余名で毎年このクラス会に元気な顔を見せる友は二十数と云う有様で誠に寂しい限りである。今年には宴席に先だち、たまに大津歴史博物館で行われていた土曜講座「古写真でふりかえる大津の二十世紀」を全員で受講、変貌する大津の街並み、湖岸の様子に今昔の感を深くし、之を宴席の話題に加えたのである。宴結となれば学び舎に在りし青年時代に戻り遠慮のない会話がはずみ、時として鬼籍に入りし友の事にかつと仲々話しは尽きない。この会を何時迄続けるかについて話し合い一応の目処として85才迄は続けようとう結論になり最後に我々が斉唱した校歌「春駒蕩の琵琶の湖」を声高らかに且別れを惜しみつつ、熱唱し閉会したのである。

若やぎて 八十路を謳歌ふ 琵琶の春 (清水 仙太郎)

真珠会 (昭和24年卒業・旧大津)

新緑さわやかな5月19日第12回真珠会を開催致しました。松山先生をお迎えして、私達は11名(25パーセント)が集まりました。クラス会にさきかけて、奈良市登美ヶ丘2丁目にある松伯美術館を尋ね、上村松園・松篁・淳之展「日本の四季」を鑑賞して、同敷地にある元近鉄社長佐伯邸を見学しました。私達の先輩で大正10年に旧制膳所中学を卒業(4修・三高・東大)されました。佐伯邸は、昭和40年に村野藤吾氏設計により建築され、庭園



は小嶋佐一氏の造園です。その後、百楽荘でクラス会を開催しました。松山先生の心温まるお話し、そして皆様の近況などお聞きし乍ら、楽しい午後を過ごしました。きっと良い思い出になるでしょう。(窪田 隆子)

膳所高13回 昭和40年卒業 (3年1・2組)

去る2月23日(土)藤谷先生、布留川先生を招いて同窓生39名がピアザびわ湖に集いました。二次会は場所を移して23名が久々のボーリングに腕を競い、わきあいあいとした楽しいひと時を時間のたつのも早く、なごりおしくも再開を念じて解散いたしました。(山村 久兵衛)



昭和27年卒有志ハイキング会

大半の同窓生が60歳の定年を迎え、第2の人生を歩くことに当たって健康が第一と考へ、健康は歩くことから始まるということで、平成8年に有志ハイキング会を結成しました。最初は20人程でしたが、大変好評で現在では約80名が会員登録され、毎回4・50名が参加をしています。

第1回 京都大文字山から三井寺へに始まり、膳所音羽山・山科醍醐寺、高槻ボロンボン山・善峰寺、草津金勝山ハイキングコース、近江八幡散策と水郷めぐり、賤ヶ岳・余呉湖、滋賀日野しゃくなげ溪、京都貴船・鞍馬寺、奈良明日香路探訪、六甲山布引滝コース、馬籠・妻籠(二泊)、山辺の路、とこれまで12回開催してきました。

なお、次の卒業50周年記念大会(第13回・第14回)を含め今後とも継続していく予定です。第13回 南アルプスの麓又峽(二泊)平成14年4月第14回 すすきの奥香落高原 平成14年10月 担当幹事 玉村 時男、松久 勇・村上喜美子 事務局電話 072617413234



山の辺の道 大神神社 大社原神社前

中主同窓会(支部)だより

平成13年11月17日(土)総会と講演会を開催しました。総会には宇野勝会長様のご臨席をいただき、本会の概況や膳所高校の現状について説明をいただきました。そのあと懇親会となり卒業年次をこえてのだんらんとなりました。

講演会は創立10周年記念事業として計画し、講師に中村富子女士(両手、両足のない身でありながらだるま娘の名で一書を運営、全国興業された中村久子様の二女)をお迎えし、「あるあるある」と題して話していただきました。

会員をはじめ一般市民、中学校生徒等呼びかけたので会場である中主中学校体育館は満席、一時間半にわたって人生体験を語っていただきました。参会者から「生きる力」をいただいたと喜ばれました。このほか会報発行により意見交換、名簿作成により会員相互の連携も深まり、10年にしてその実をみるようになりました。(会長 長谷川 良治)

関東膳高会第67回総会

関東膳高会(清水健至会長 昭和26年大高2回)第67回総会が、1月26日東京・原宿の南国酒家において、本校より宇野勝同窓会長、西岡宏堂学校長、岩崎榮三前同窓会長夫妻他校友課の先生を招き、同窓生約120名の出席のもと開催された。

一部総会は清水会長、来賓の挨拶で始まり、事業報告、会計報告など総会の議事が進行し、全て原案通り承認されました。



二部懇親会の前には5班に別れて記念写真の撮影が行われた後、大西恒成氏(昭和18年卒 膳中41回)の乾杯で懇親会が始まり、昭和9年卒から平成12年卒まで年齢差70歳の同窓生が和気あいあい賑やかに酒を酌み交わし、中国料理を楽しんだ。最後には年の初めの運だめし、ラッキーカードでの抽選会であり、予定時間は「あつと」言う間に過ぎ、今年一年の活躍と、来年の再闘を約してお開きとなった。(Y)

周年記念同窓会 予告

■真珠会 (同級会)

昭和24年卒業 (旧大津)

日時 平成14年5月31日(金)

会場

見学 徳川美術館

名古屋市中村区徳川町(一七)

(052-193516269)

同級会 名古屋 Marriott アソシアホテル

名古屋市中村区名駅一丁目4号

(052-15841111)

・連絡先 (056512811451 金原)

■四六会 (同窓会)

昭和23年膳所中卒業
昭和24年膳所高卒業

日時 平成14年6月15日(土) 昼

会場 大津シャンピアホテル

世話人 田中 健一・木下 三郎・小島 晴雄・西川 右門

・4月下旬詳細案内状発送します

■「ふなの会」(事業案内)

大津高昭和27年卒同窓会「ふなの会」では、卒業50周年を記念して今年、次のような大会を実施します。ふるってご参加ください。

◎ 記念旅行

日時 4月12日(金)・13日(土)

行先 南アルプスの麓・寸又峡

◎ ゴルフ大会

日時 5月16日(木)

場所 瀬田ゴルフコース

◎ グランドゴルフ大会

日時 9月25日(水)

場所 矢橋婦帆船公園グランドゴルフ場

◎ 記念ハイキング

日時 10月18日(金)

行先 すすきの奥香落高原

◎ 記念パーティー

日時 11月17日(日)

場所 琵琶湖ホテル

連絡先・事務所 (玉村時男)
電話 072617413234

会員名簿出版について

前回は母校創立100周年を記念して平成10年に発行されました。早や5年の歳月が過ぎ、今回は平成15年5月に増補改訂して発行することとなりました。

同窓会員3万2千名を超える膨大な会員を擁し、約千頁となる予定です。

全員の住所など正確な情報を把握するため、本年7月に調査カードを各人にお送りしますので必ず返信願います。

平成15年3月には調査を終了し、4月に印刷製本、平成15年5月に発行の予定です。

今回の頒価は、前回同様4,000円(送料、税込み)です。この名簿は会員のみ完全予約販売ですので、ぜひご予約くださるようお願いいたします。名簿作成は(株)サトに委託して行いますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(組織部会長 横田 陽子)

寄稿

短歌

時移り世は変われども

百年の遵義の桜の宴忘れず

大いなる希望抱きて集いたる

遵義の桜の園の若人

いつの日か

未来の或る日に会いましょう

遵義の桜の花咲く下に

心の宝七十三歳

チヨーク持ち励みし昔の思い出は

心の宝七十三歳

川崎 洋子 (田職員)

俳句

生きものの舌衰えずピラカンサ

フィナーレのような噴水朧の夜

鍵盤の十指の嵐冬薔薇

喜多 希見子 (昭和25年卒業 旧大津)

昭和25年卒業 旧大津

平成13年度同窓会会計中間報告・平成14年度同窓会総会提出議案

平成13年度 同窓会会計中間報告 (H13.4.1~H14.2.28)

一般会計 《収入の部》

項目	金額	H13年度予算	備考
前年度繰越金	5,478,738	5,478,738	
平成13年度会費	3,665,000	3,000,000	会費会計より振替
前受会費	5,672,378	5,672,378	会費会計より振替
同窓会入会金	1,305,000	1,320,000	
雑収入	1,611,918	30,000	受取利息・ワンダール収入
合計	17,733,034	15,501,116	

《支出の部》

項目	金額	H13年度予算	備考
総会費	383,170	880,000	
会議費	126,802	250,000	理事会、役員会等
交際費	2,310	70,000	
通信費	746,182	694,000	郵送料ほか
光熱費	114,343	170,000	電気代ほか
旅費交通費	80,000	150,000	
支払手数料	98,440	130,000	
雑給与	1,593,500	1,980,000	
コンピューター関係費	58,558	200,000	
事務用品費	130,890	250,000	
備品・消耗品費	13,131	100,000	
広報発行費	958,230	934,000	1回分
広報発送費	2,282,149	2,363,000	1回分
テレカ作成費	60,900	350,000	
学校助成金	500,000	500,000	
慶弔費	107,911	100,000	
班活動奨励金	3,000,000	1,000,000	
広報部部会費	4,011	315,000	
組織部部会費	2,089	160,000	
事業部部会費	243,890	360,000	
財務部部会費	0	160,000	
総務部部会費	31,811	180,000	
周年同窓会祝い金	270,000	0	
予備費	0	4,205,116	
合計	8,808,308	15,501,116	

差引現在残高 8,924,726 (=17,733,034-8,808,308)

会費会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前受会費繰越金	13,593,741	
平成13年度会費	3,633,000	
平成13年度端数会費	32,000	
平成13年度前受会費	2,204,000	
合計	19,462,741	

《支出の部》

項目	金額	備考
平成13年度会費	3,633,000	一般会計へ振替
平成13年度端数会費	32,000	一般会計へ振替
前受会費平成13年度分	5,672,378	一般会計へ振替
合計	9,337,378	

差引現在残高 10,065,363 (=19,462,741-9,337,378)

一般会計現在残高 8,924,726 + 10,065,363 = 18,990,089

特別会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前年度繰越金	3,522,556	
利息	1,226	
合計	3,523,822	

《支出の部》

項目	金額	備考
第2グラウンド夜間照明設備	3,000,000	
合計	3,000,000	

差引現在残高 523,822 (=3,523,822-3,000,000)

名簿会計 《収入の部》

項目	金額	備考
前年度繰越金	8,329,613	
名簿売上金	32,200	
利息	4,396	
合計	8,366,209	

《支出の部》 なし

差引現在残高 8,366,209

同窓会財産目録 (H14.2.28現在)

I. 一般会計及び会費会計 合計			
☆郵便局	定期貯金	1口	10,000,000
	郵便振替	1口	147,660
	郵便貯金	3口	992,220
☆滋賀銀行	本店 普通預金		179,749
	膳所支店 定期預金		6,517,725
	膳所支店 普通預金		889,075
☆びわこ銀行	本店 普通預金		145,948
	膳所支店 普通預金		7,720
☆事務室現金			109,992
	計		18,990,089
II. 特別会計			
☆滋賀銀行	膳所支店 普通預金		523,822
	計		523,822
III. 名簿会計			
☆滋賀銀行	膳所支店 定期預金		2,500,000
	膳所支店 普通預金		5,866,209
	計		8,366,209

平成14年度 事業計画案 (概要)

会員相互の親睦と教養の向上、母校に対する支援・協力の諸事業を行います。

今年度から、老朽化した現校舎の改築整備という大事業が行われることとなりました。同窓会としても、今以上に支援・協力の出来るよう努力をまいります。

○総務部会 年次総会・理事会の開催、役員会は必要に応じ開催します。母校との連絡協議を積極的に推進し、又、各部会への協力・支援を行います。

○財務部会 会費収入の減少が予測されるので会費納入の促進、財政面の充実に努めます。

○事業部会 学校後援会活動・文化班・体育班への奨励に努めます。総会の開催、学年同窓会への協力、ゴルフ大会等交流会の開催を通じて、同窓会活動の活性化に努めます。

○広報部会 昨年より年1回の発行となった同窓会報「JUNGIDO」を母校と同窓の校友を結ぶ絆として、また同窓の皆様方の情報交換の場として活用していただき、皆様に愛され、親しまれる紙面作りを努めます。

○組織部会 地域の組織、職域の組織の充実、各学年の同窓会活動への協力を図ります。年間を通しての名簿の整備をすすめ会員相互の親交が深まるよう努めます。

平成14年度 予算(案)

一般会計 《収入の部》

項目	H14年度予算案	備考
前年度繰越金	8,924,726	
前年度会費	3,000,000	
前受会費	3,789,363	
同窓会入会金	1,320,000	
雑収入	30,000	受取利息・ワンダール収入
合計	17,064,089	

《支出の部》

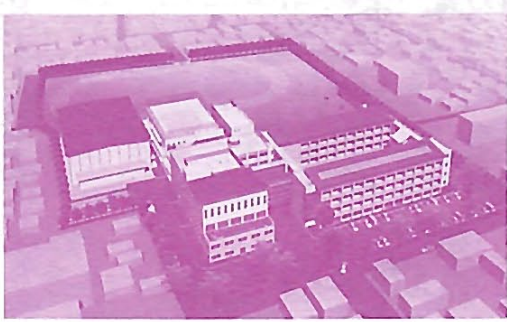
項目	H14年度予算案	備考
総会費	600,000	
会議費	200,000	
交際費	70,000	
通信費	690,000	郵送料ほか
光熱費	150,000	電気代ほか
旅費交通費	120,000	
支払手数料	130,000	
雑給与	1,560,000	
コンピューター関係費	100,000	
事務用品費	150,000	
備品・消耗品費	50,000	
広報発行費	910,000	1回分
広報発送費	2,250,000	1回分
テレカ作成費	0	
周年同窓会祝い金	500,000	
学校助成金	500,000	
慶弔費	100,000	
班活動奨励金	1,000,000	
各部会費	500,000	
予備費	7,484,029	
合計	17,064,029	

校舎改築着工へ

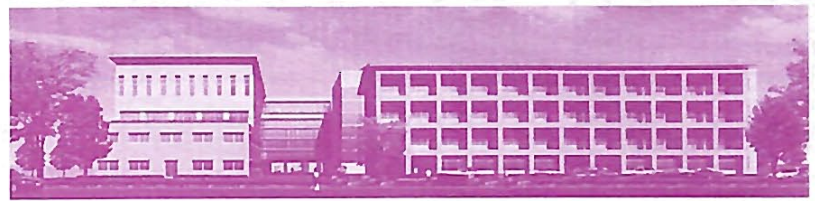
膳所高校事務局長 福井 毅

前号でお知らせした校舎改築については、昨年度1年間をかけて、基本設計と実施設計が行われました。今年度は、県の財政状況が大変厳しい中ではあります。改築工事が予算化され、いよいよ着工の運びとなります。今号では、改築計画の概要をお知らせします。

設計では「地域交流」「歴史風土」「生涯学習」「自然環境」の循環が基本方針とされ、建築手法として取り入れられています。知識・地域の核・生涯学習のラーニングセンター、コミュニケーション・ゆとりオープンスペース、省資源・省エネルギーなどの環境に配慮したエコスクール、だれもが永く使い続けられるためのユニバーサルデザイン・長寿命化、交流・ネットワークの corrido (回廊)、光や風の通り道のライトコート・吹き抜けなどです。



新校舎は下図のように計画されており、現在のグラウンドに鉄筋コンクリート造4階建て延床面積11,465㎡の校舎棟、鉄筋コンクリート造3階建て延床面積1,039㎡の体育施設棟、鉄骨造り2階建て延床面積500㎡のセミナーハウス棟の3棟が新築されます。体育館は耐震診断調査の結果により改修が行われます。校舎棟は理科・家庭科系特別教室などのHR棟と管理部門、図書館、視聴覚室、芸術系特別教室などの管理棟が回廊でつながり、中央に生徒ホールなどのオープンスペースがある構造となっています。体育施設棟は武道場、部



室、体育教科準備室、プールなどですが、限られたスペースを有効に使うため、屋上プールとなります。セミナーハウス棟は、研修室が1階、和室が2階に設けられます。

改築工事は平成14・15年度の2カ年をかけて校舎棟、体育施設棟、セミナーハウス棟が新築され、平成16年度に旧校舎の解体とグラウンド整備が行われる計画です。なお、昨年度に埋蔵文化財の試掘が行われグラウンドの埋蔵文化財が確認されていますので、改築に先立ちグラウンドの埋蔵文化財発掘調査が行われます。

同窓会の皆様には、校舎改築について今後ともご支援をいただきますようよろしくお願い致します。

恒例になった 同窓会ゴルフ大会

平成13年9月24日(振休)、恒例になった同窓会ゴルフコンペが、素晴らしい秋晴れのもと、メイプルヒルズゴルフ倶楽部において開催された。100周年事業も残り、年々参加者も減少さみで心配されたが、100名を越すエントリーを得て、盛会裏に進めることが出来た。大先輩82歳から40歳まで参加者の幅も広く、年代を越え、和気あいあいのもと、熱戦が繰り広げられた。

プレー終了後は、同クラブハウスにおいて、上木徹副会長の挨拶に続き、最年長者奥村吉朗氏(昭11年卒)による乾杯の発声で賑やかに親睦会が始まった。途中、成績発表(Wペリア方式)が行われ、本会ならではの賞も多く用意され、楽しい一日を過ごすことが出来た。

優勝者は、△男子▽ 山本一郎氏(昭38年卒)、△女子▽ 長谷川 敏子(昭38年卒)でした。

なお、今年も秋に開催の予定です。過去の参加者を中心に案内をしていますが、参加ご希望の方は、同窓会事務局までご一報下さい。多数の参加をお待ちしています。(事業部会長 松村 文夫)

理事会報告

去る3月2日(日)午後1時30分より、アヤハレ1クサイドホテルにおいて平成13年度の理事会が開催されました。

宇野勝同窓会長の挨拶の後、西岡宏堂学校長から校舎改築の概要と工期、学校の現状、生徒会活動などの報告をかねてご挨拶いただきました。

規約により議長は常任理事長の飯田勝一が務められ議事が進行されました。議事内容は平成13年度会務報告、会計中間報告、平成14年度事業計画、

予算案が審議され、規約の一部改正(1)会費の変更(2)平成15年度定例総会の日程の変更が提案されました。

なお、当日の参会者は91名で委任状提出者が351名、無連絡者が269名でありました。(平成13年度の理事総数は711名です。)

膳所高卒業生寄贈図書 「石鹿文庫」

書名・巻次(版次)	著者名
shuzo Azuchi Gulliver La dolce vita	安土 修三 著
僕らの環境戦争	よしだ まさはる 著
近代文学初出復刻 樋口一葉集	山本 洋 著
滋賀の文人(近代)	山本 洋 著
新日本文学史	山本 洋・秋本 守英 著
中学校・高等学校国語科教育法	大規 和夫・川端 俊英 著
教材の研究と授業の実践	藤井 了諦・山本 稔 著
卒業論文ハンドブック	山本 洋 著
〈近現代文学編〉	大津市
大津の市民文化活動40年のあゆみ	大津市教育委員会 編
プラトン社雑誌「女性」解説	山本 洋 著
群像日本の作家3 樋口一葉	岩橋 邦枝 著
一葉「にこりえ」全考	山本 洋 著
室生犀星寸描	大森 盛和・葉山 修平 著
新現代国語1	遠藤 嘉基・谷山 茂 著
新現代国語2	遠藤 嘉基・谷山 茂 著
新現代国語3	遠藤 嘉基・谷山 茂 著
熊本県産業経済の推移と展望	熊本学園大学 産業経営研究所 編
自立と連携をめざす地域社会	桜井 厚・岸 衛 編
屠場文化…語られなかつた世界	八幡 和郎 著
日本の国と憲法…第三の選択	八幡 和郎 著
逃げるな父親…小学生の子を持つ父のための17条	山本 治雄 著
水らえて、今…逃げきわが八十余年	竹内 将人 編
膳所藩に付近の古文書と絵画、絵図類	竹内 将人 編
竹細工の名人 清水風外の作品写真集	竹内 将人 著
城下町膳所の昔話	竹内 将人 編
瀬田の唐橋	竹内 将人 編
城下町膳所の今昔	竹内 将人 編
膳所六万石史	竹内 将人 著
晴嵐史話	晴嵐コミニティ 編
統 軍部大津	中島 峰夫 著
高校生のための社会科学読本2	滋賀県高等学校 理科教育研究会地学部会 編
改訂 滋賀県地学のガイド(上、下)	滋賀の地質とそのおいたち

卒業生文庫「石鹿文庫」へご寄贈を。

同窓生の著書を集めた「石鹿文庫」も皆様のご寄贈で充実してまいりましたが、さらなる充実をめざしてご協力をお願いします。なお、ご寄贈いただく際には同窓会事務局までお知らせください。

年会費が変更になりました

皆様から納入いただいております年会費が変更になりました。平成14年3月2日(日)に開催されました理事会において、年会費が3,000円から2,000円に減額されることが決議されました。従って、平成14年度の年会費は2,000円に5年会費は10,000円となります。10年会費は廃止されました。

一人でも多くの会員様に納入いただきますようお願い申し上げます。百周年事業は終了いたしました。本年からは校舎改築計画にぜひとも同窓生の皆様方の温かいご支援ご協力を切にお願い申し上げます。(本件については、昨年度の総会で役員会に一任され、これを受けて決定したものです。)

※新卒の同窓生は、卒業後4年間は卒業時に納入する入会金3,000円のみで、卒業後5年目から会費納入をお願いしています。
※ご住所等に変更がある場合は振替用紙にその旨をご記入ください。

滋賀県立膳所高等学校同窓会

年会費納入のお願い

平成14年度会費を同封の振替用紙にてご納入いただきますようお願いいたします。

会費は年額2,000円となっておりますが、5年(10,000円)、まとめてご納入いただければ幸いです。

〔納入機関〕 郵便局 01010-3-30378
(振替用紙は共通です) 銀行 滋賀銀行 本店(110) 普 913381
びわこ銀行 本店(111) 普 335940

いずれも名義は、滋賀県立膳所高等学校同窓会 会長 宇野 勝 です。



ご理解とご協力を
よろしくお願いたします。



同窓会入会式開催

2月28日に、同窓会入会式が行われ、男子233名、女子203名、合計436名の新しい同窓会員を迎えた。宇野会長より歓迎と激励の言葉が贈られた。その中で、「身体に気をつけて、幅の広い勉強をして、一隅を照らす、なくてはならぬ人になるように。」と卒業生に語りかけられた。

新卒業生の各クラス同窓会理事は以下の通り。21世紀の同窓会活動の中心となり、若いエネルギーを結集させていただきたい。

- 理事
- 1組 宇田 静香
 - 2組 新庄 隆英
 - 3組 塚本 朱里
 - 4組 木村 元彦
 - 5組 永濱 祐樹
 - 6組 藤木 泰斗
 - 7組 佐野 敬
 - 8組 岡本 優
 - 9組 本城 暢臣
 - 10組 佐藤 康明
 - 11組 重森 歩美
- なお、常任理事には宇田さん、水濱さん、本城さんが選ばれた。

第50回卒業式

3月1日に、本校体育館にて第50回卒業証書授与式が行われ、436名が学舎に別れを告げた。在校生（2年生全員、1年生代表）、教職員、保護者が出席し、来賓として、宇野同窓会会長、元校長松山先生、同南池先生、同武原先生、同浅田先生、旧職員村松先生、PTAの岩見会長、同西田副会長、同八十住副会長の出席のもと、盛大に開催された。

い。と、校訓の遵義・力行を生き方の指針とするよう述べられ、卒業生への餞の言葉とされた。今回は卒業生の言葉を3年3組四谷君、3年5組永濱君が代表して読み上げた。各クラスから代表が加わりクラス担任・学年主任・副担任へそれぞれ感謝の気持ちを述べた。卒業生達は、緊張感の中に喜びを噛みしめ、吹奏楽班による「蛍の光」演奏の中、満場の拍手を浴びながら、会場をあとにした。



担任から呼名され卒業証書が代表に授与された。その後、西岡宏堂校長は式辞の中で、「卒業にあたって、家族の愛情、地域の理解や支援、恩師の指導があったことを忘れずに」さらに「本校卒業生として、自信と誇りを持ち、豊かな心で困難や苦勞を乗り越えて欲しい。」



またこれに先立って、前日2月28日に卒業記念品目録贈呈式が行われ、代表の3年4組八十住慧史君が、西岡宏堂校長に目録を渡した。記念品は、校訓「遵義力行」の石碑と応援横断幕とベンギンの置物で石碑は校門近くに設置された。

班活動報告

全国大会の結果

- 【体育部】
- インターハイ
 - サッカー 1回戦 膳所2-2多々良学園山口
 - ソフトテニス男子 個人戦 (中村卓人・水田智也組) 出場
 - 卓球 男子団体戦 1回戦 膳所0-3熊本工業
 - ボート 男子舵手付クオドルブル 準々決勝 3位
 - 空手道 女子個人形出場 準々決勝 4位
 - 男子個人形出場 山内浩司

国民体育大会

- ボート 男子舵手付クオドルブル 滋賀選抜 5位 (四谷高広、永野学、藤田純一、長澤彰人)
- ヨット 女子シングルスカル 貝塚由佳 8位
- 少年女子シィホッパ1級SR 青木久美 19位
- 少年女子FJ級 北川奈津子、松崎生笛 30位
- 少年男子シィホッパ1級SR 黒川篤 18位
- 少年男子FJ級 岡部諒、渡邊健太 22位
- 女子個人形出場 木村陽子
- 女子個人形出場 (矢島卓郎)
- 全国選抜大会出場 女子舵手付クオドルブル、男子舵手付クオドルブル、女子シングルスカル (杉村奈名子)

【文化部】

- 全国高文祭 放送 ビデオメッセージ部門 (14年度出場決定) 小倉百人一首かるた部門 団体戦出場 激励賞 読手コンクール 桑山知美 3位
- 将棋 個人戦 山 健太 ベスト16
- 【その他】 NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス部門出場(宮武舞) 創作ラジオドラマ部門出場 (八窪あつこ、藤井映子、下村恵子)
- かるた 全国高校小倉百人一首かるた選手権 団体戦 3位 個人戦 D級 4位
- 生物 第44回 日本学生科学賞中央審査 出品 「ヨシノボリの研究」 小川さやか、百合野大雅

サクラサク!

主要大学合格者

(国立大学)		(公立大学)		(私立大学)	
京都大	40名	神戸大	35名	大阪府立大	8名
大阪大	33名	京都工芸繊維大	11名	京都府立医大	4名
滋賀大	10名	奈良女子大	9名	神戸市外大	3名
名古屋大	8名	滋賀医大	8名	都留文科大学	1名
京都教育大	7名	金沢大	6名	金沢美術工芸大	1名
大阪外大	5名	東京大	5名	京都市立芸大	1名
大阪教育大	5名	広島大	5名	兵庫県立看護大	1名
筑波大	4名	名古屋工大	4名		
北海道大	3名	弘前大	2名		
千葉大	2名	一橋大	2名	立命館大	28名
静岡大	2名	鳥取大	2名	早稲田大	26名
香川大	2名	東北大	2名	京都産大	22名
秋田大	1名	山形大	1名	京都薬大	14名
埼玉大	1名	東京工大	1名	関西学院大	13名
福井医大	1名	信州大	1名	同志社女子大	8名
愛知教育大	1名	岐阜大	1名	慶応大	6名
鳥根大	1名	鳥根医大	1名	東京理大	4名
岡山大	1名	徳島大	1名	法政大	3名
長崎大	1名	琉球大	1名	明治大	3名
防衛大	2名	水産大	1名	京都造形芸大	3名

編集後記



●百周年を成功させようという熱い思いで編集に携った広報部員も10年の歳月と共にお疲れモード。加えて各口編集長の急遽のシヨックもあって退部者が続出。わずかなスタッフでどうにか発行に漕ぎつけました。

●「遵義の桜 更なる開花」のため中心に、同窓生活動報告として若手(?)を中心に寄稿いただきました。「取らぬ狸の皮算用」にならないよう、若い同窓生の皆さんの同窓会活動ならびに広報部会への積極的なご参画を心からお願ひします。

お知らせ

膳所高等学校同窓会ホームページとして、非公式web JUNGLE IDOが開設されています。この件について同窓会および同窓会広報部会は一切関係しておりませんので承知ください。

- 上野滋子 (東2)・佐田葉子 (旧大)
- 山田 勲 (膳11)・服部 章 (膳12)
- 岡澤則子 (膳26)・萩山恵一 (膳30)